東京市域の拡大



東京市域拡張図（分区図）昭和7年5月24日府告示第311号　請求番号：金子文庫-597

大正11年(1922)４月に東京の都市計画区域が東京駅から１時間の範囲、半径約16kmの範囲に設定されました。おおよそ現在の23区の範囲にあたります。その後、関東大震災の復興事業を経て、都市計画区域と行政を一致させて都市計画を実行するべく、東京市域の拡張が検討されました。

昭和７年(1932)10月に東京市近隣の荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡からなる５郡82町村、昭和11年10月に北多摩郡千歳村・砧村が編入され、東京市は15区から35区になりました。新しく設置された20区は、品川・目黒・荏原・大森・蒲田・世田谷・杉並・豊島・滝野川・荒川・王子・板橋・向島・城東・葛飾・足立・淀橋・中野・渋谷・江戸川です。